

「たなぼた」とは



DOWAホールディングス会長 **山田 政雄**
やまだ まさお

ある会議で、出席者の一人の言葉がとても記憶に残っている。それは、「この業績の結果はともついている。ラッキーな内容だ。いわば『たなぼただ』というものである。

ものの本によると、たなぼた(棚からぼたもち)とは、「思いがけない幸運により、苦労せずに大きな収穫を得る」というようにある。確かに、そのときの業績は会議で発言された方のおっしゃるとおり、これまでのマーケットの常識からすれば、思いもよらぬ、誰もが想定したことのないような出来事による結果とも言えた。たった一つの金属の価格で業績が大きく上昇したのだ。資源のビジネスに携わる者なら誰しも、価格の上下動はある程度織り込んでいるものだが、時折、想像を絶するような変化が起こる。

ずいぶん昔の話になるが、あるアメリカの富豪が世界中の銀の数十パーセントを買い占めたことで、銀の価格がそれまでの数倍に跳ね上がったことがあった。それは当時、銀が多く使われていた写真フィルムの値段にまで影響を及ぼすものであった。また逆に、リーマン・ショックの際には、銅の価格が1トンあたり100万円程度から一気に30万円まで、わずかな期間で3分の1に値下がりしたこともあった。他のビジネスではおよそ考えもつかな

い価格の大変動が現実起こり得るのである。

さて、話を元に戻すと、その会議が終わった後に発言された方と2人で話をした。私は、「結果だけを見ると、確かに『たなぼた』に思えるかもしれませんが、ただ、『たなぼた』とは、全てが偶然と幸運のみによる結果ではないと思っています。なぜなら、ぼたもちが落ちてくるであろう棚の下まで事前に到達すること、そしていつ落ちてくるか分からぬぼたもちをタイミングよく受け止めることが必要で、そこに至るまでの地道な努力と見極めこそが大事なのではないかと私は思います。今回の結果もこれまでの積み重ねによる成果だと考えています」と申し上げた。相手の方も当社的那样な過程を思い浮かべられ、腑に落ちた様子であった。

資源ビジネスは、まず鉱山を探すことから始まる。「たなぼた」以外にも、例えば「せんみつ」とは、1000本のボーリングを掘って3本も鉱石に当たればいい方だとか、「ヤマ師」は、当たれば大儲けだが、外れば大損、など業界ではよく使われる言葉である。

結果が出てから評価することはたやすいが、そこに至る過程の一つ一つの積み重ねとそれに伴う判断と行動が、良い結果に繋がっていくものと深く信じている。